

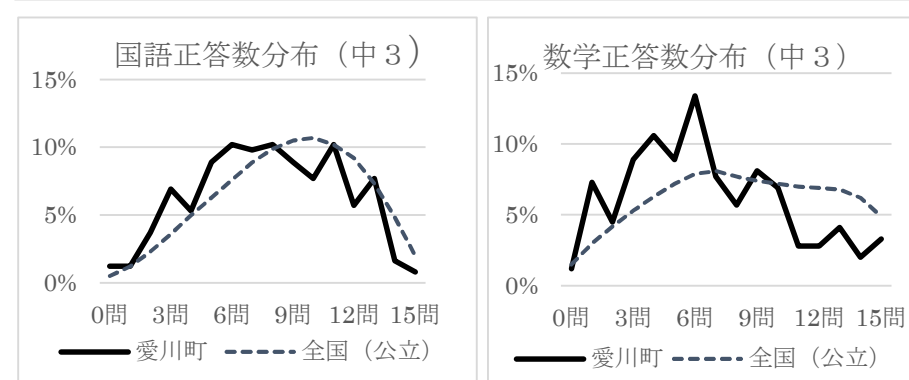
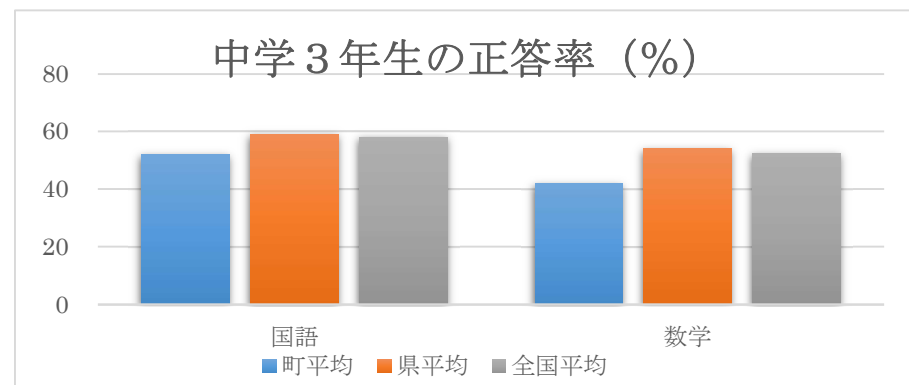
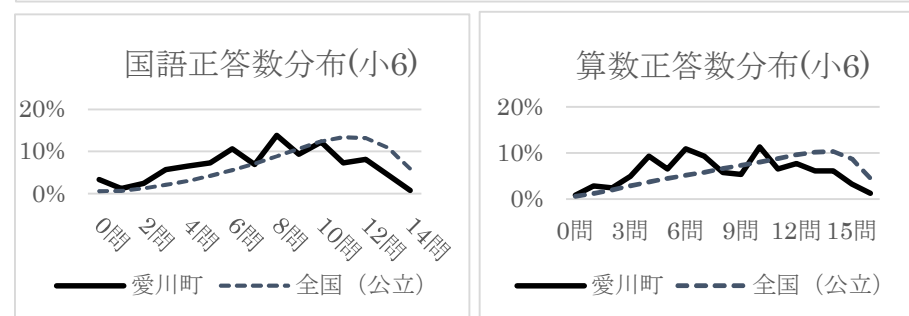
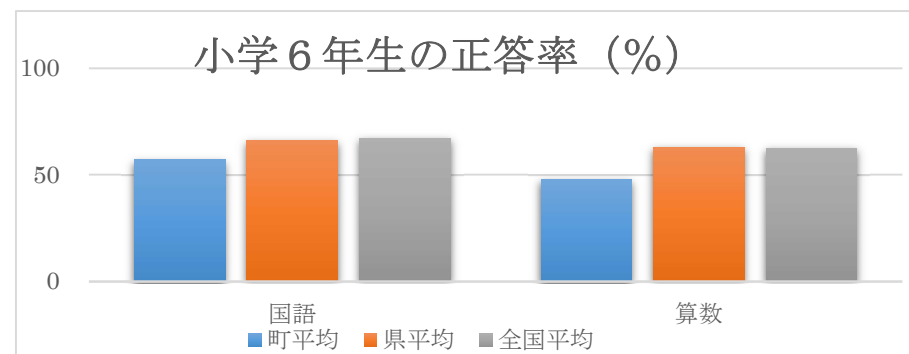
令和6年度 全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）の結果と今後の展望

愛川町教育委員会

令和6年度に実施された全国学力・学習状況調査について、文部科学省 国立教育政策研究所から報告書と調査結果資料が公表されました。愛川町の「教科に関する調査」と「質問紙調査」の結果から見てくる町の小学校6年生と中学校3年生の課題とその改善策について、学校の先生方とともに分析した結果と今後の展望を報告します。



1 町内児童・生徒の教科に関する調査結果



国語の「話すこと・聞くこと」領域では、町の中学3年生の平均正答率が県や全国に2ポイントと迫っており、話し合い活動を含めた協働的な学びによる効果が表れたと考えられます。一方、小学6年生については、7.6ポイント下回っていることから、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする活動の充実が必要であると感じます。

記述式の問題に対しての無回答率は、中学校数学において多い傾向がありました。小中学校ともに理由をまとめて書いたり、物事を説明したりする問題についても無回答率が高い傾向がありました。

【小学6年生】

国語・算数の正答率は、全国・県と比べてともに下回っています。正答数の分布を見ると、国語では8問（全国・県10問）、算数では8問（全国・県11問）が中央値となっており、全体的に中位層から下位層が多い傾向にあります。

【中学3年生】

国語・数学の正答率は、全国・県と比べてともに下回っています。正答数の分布を見ると、国語では8問（全国・県9問）、数学では6問（全国8問県9問）が中央値となっています。小学校からの積み重ねで国語の力が向上している傾向があります。

【参考】R5年度実施町学力検査の結果と今後の展望
(R5年度中学2年生・小学5年生の結果)
QRコード



2 改善策

※各学校から挙げられた改善策の具体例

国語

- ・自分の考えを伝えるときにどのように工夫したら相手に伝わりやすいか、新聞づくりやプレゼンテーション作り等に取り組ませ、よりよい伝え方に取り組む。
- ・グループ活動において、自分の意見をそれぞれ伝えるだけにとどまってしまうが、自分の意見と他人の意見の違いに着目させることで、質問を引き出すような工夫をしていく。

算数・数学

- ・ICTを活用し、視覚的に学習支援したり、個に応じた学習支援として、アプリを使ったりしていく。
- ・単元内で身につけたい内容を明確にし、必要に応じて、前の学年に遡り学習を行う。
- ・わかりやすい授業にするため、チームティーチングの体制の工夫をしたり指導法の改善をしたりしていく。

3 町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果

◎以下の質問に対して回答した児童・生徒の教科ごとの正答率（クロス集計）

・町平均正答率より高いところに網掛け

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」		平均正答率（％）					
		小学6年生			中学3年		
		児童数 (人)	国語	算数	生徒数 (人)	国語	数学
1	当てはまる	80	59.0	52.0	92	60.5	49.9
2	どちらかといえば、当てはまる	131	53.0	51.3	121	48.0	39.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	23	56.5	55.7	22	43.6	36.1
4	当てはまらない	7	44.9	49.1	3	48.9	41.7
5	話し合う活動を行っていない	2	53.6	59.4	1	66.7	43.8

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」		平均正答率（％）					
		小学6年生			中学3年		
		児童数 (人)	国語	算数	生徒数 (人)	国語	数学
1	3時間以上	12	68.2	63.0	19	60.4	51.6
2	2時間以上、3時間より少ない	21	53.7	52.7	49	51.8	47.3
3	1時間以上、2時間より少ない	65	56.6	52.6	65	54.3	43.4
4	30分以上、1時間より少ない	69	59.2	53.6	57	51.3	40.2
5	30分より少ない	52	48.1	46.4	32	47.1	37.7
6	全くしない	25	47.4	49.3	16	51.3	38.3

上記の調査結果より、授業時間内の話し合い活動の充実が正答率の向上に繋がる傾向が見られる。また、小学生では30分以上、中学生では1時間以上の家庭学習を行うことで一定の成果が得られる。また、タブレット端末を利用したアプリやドリル学習なども有効な手立てと感じました。

4 今後の展望

「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問項目では、全国や県と比べてポイントが高い傾向でした。

今後、他者との話し合いなどを通じて考えの深まりや新しい考えの気づきを実感する経験を増やし、その経験と学習をつなげ学習意欲の向上を目指していきます。